理想の働き方ってなんだろう？

※声は【2024.11月】花みずき編集部アンケート
働き方をする上で何を変えたいか教えてください。」の回答より抜粋

花みずき

ー多様化する働き方ー

４人の女性が語る、新たな挑戦と可能性

2019年から「働き方改革関連法」が施行され、5年以上が経過しました。リモートワークの広がりや産後パパ育休の開始など、私たちを取り巻く環境は少しずつ変わってきました。しかし、今もなお、仕事とライフイベントの両立に頭を悩ませる女性は多くいるのではないでしょうか。

今回は、令和６年度に地域コミュニティ課が開催しました「時間や場所にしばられない！私らしく働くフリーランス講座」の受講者有志が、自分らしい働き方を実現してきた女性へ取材し、理想の働き方について考えました。

多様な働き方　クリマロさんのケース

栗田 こずえ さん

いきものクッキーアート専門店
株式会社クリマロ　代表

　お店に入ると、哺乳類から爬虫類、また微生物まで、見ているだけで楽しくなるようなたくさんのいきものクッキーがずらりと並ぶ。

　株式会社クリマロは、いきものクッキーアート専門店として、生きものたちの魅力をクッキーで表現。代表の栗田こずえさんは、クッキーアートで生きものの多様性を伝えたいと邁進している。

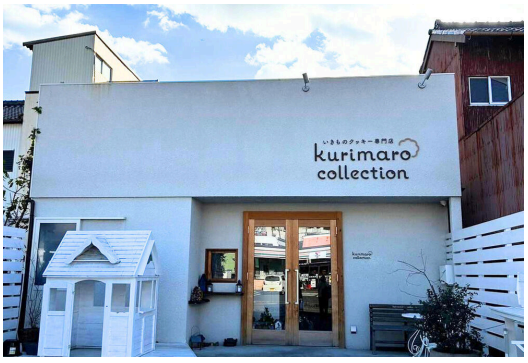
▲お店の顔のモリフクロウのビスケットちゃんはクッキーアートにも登場！

　栗田さんの思いは生きものの多様性のみならず、人間の多様性にも繋がっている。例えば、クリマロでは、子育てをしながら働くスタッフもいれば、連携する就労支援を縁に就職したスタッフも活躍している。

　それぞれの個性や強みを活かし、支援・協力できる環境づくりに取り組むことで、仕事のあり方の本質を見出し、お互いに良い影響を与え合い、成長し、応援していける環境づくりに関わっていきたいと考えるようになった。
多様性に富むスタッフ全員の強みを生かし、生き生きと働ける会社の実現を目指している。

「生きものの魅力を伝える」という原点から、クッキーアートを通して、また一つ優しい世界になっていくように貢献したいと語る栗田さん。「叶えたいことがあるのであれば、これだと思える道を見つけるまでやり続ける」という言葉は、私たちへの力強いメッセージだ。
　栗田さんの共生という理念のもとに、これからも多様な働き方を応援し、スタッフの笑顔があふれるお店作りを続けてほしい。（柳）

▲これまでに作ってきた生きものは約1000種類。店頭には常時約200種類が並ぶ。
かわいくも特徴を精巧にとらえた作りが魅力だ。



◀栗田さんがはじめて作ったいきものクッキーの「うさぎ」は今も現役。

経験を強みに柔軟に働く 理想的なワークライフバランス

神谷 加奈子 さん

企画・編集ライター/講師

昨年の桑名市フリーランス講座講師の神谷さん。現在は、書籍や雑誌等の取材執筆する一方、高校で社会を教えている。また、フリーランス仲間とWriting Shipというチームを結成し相互協力や制作、勉強会を実施している。

大学ではジャーナリズムを専攻。新卒で新聞社に就職し、地方の市政等担当記者として働いていた。しかし結婚・出産後も続けるのは難しいとの思いから、新聞社を退職しフリーで仕事を請け負うように。同時期に高校で働き始め、ライターと講師の二本柱という現在の土台となる働き方へシフトしていった。

記者時代から一貫して「歴史・地方創生」というテーマを軸に未来に続くストーリーを重視して取材をしている。「統一化された都市文化では得られない、地域ならではの魅力をいかに残して伝えていくかが今後の課題。その伝え手となれたら」と語る。

自ら仕事を選定していかなければならないフリーランスという働き方。記者時代に培った自らの足で出向き取材・執筆するスキルや、信頼基盤が多大な強みとなり、現在の働き方につながっている。

プライベートでは小学生の二児の母で子育て真っ最中。コロナ禍を機にオンラインを駆使して遠方の企業との仕事が可能になったり、夫がリモート勤務ができるようになったりと大きな変化があった。動きやすさに幅が出て、理想的なワークライフバランスを保てているそうだ。何より時間や場所に融通が利くことで働きながらも子どもたちの成長を間近で見られることがうれしいという。

多様な働き方が求められる今、フリーランスという働き方は今後さらに注目されるだろう。自己責任の部分が大きく、誰にでもおすすめできるわけではないというものの、「長時間勤務の正社員という働き方に限らず、より柔軟で、個人と企業が協力し合う働き方が増えていくのでは」と話していたことが心に残った。

「今までの仕事や人生での経験は独自の強みとなっている。挑戦したいことを実行して形にできることが楽しい。継続的な努力は必要不可欠だが、場所・状況・年齢に関係なく自分自身で生活を守っていけるという自信にもなる」と神谷さんは笑顔を見せた。

終始楽しそうに話す姿がとても印象的で、女性のみならず誰もが憧れる生き方だと感じた。働き方に悩んでいる方の希望と勇気になればと思う。
（中村りえ）

フルリモートで世界と働き、家族との時間を紡ぐ

林 りエ子 さん

IT系企業　海外営業職

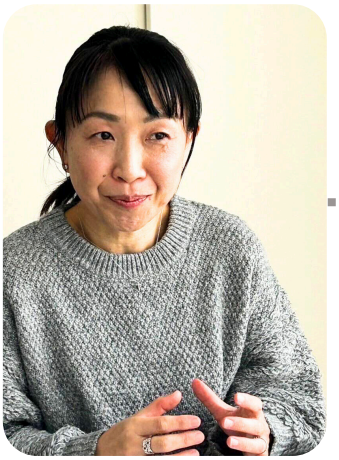
穏やかでチャーミングな雰囲気をまとった林リエ子さん。桑名にいながら、世界の企業を相手にフルリモートで海外営業職として働いている。

中学生の頃に兄の影響でトップガンを観て、英語に興味を持った。短大卒業後、家具屋に勤めたのちにオーストラリアに留学、学士取得を経て29歳の時に現在の会社へ入社。勤務先の企業は、ITサービスやIT環境を日本国内のみならず、シンガポールなどアジア太平洋地域に多言語で提供する会社だ。本社は東京で、アメリカ人の社長を筆頭に多国籍な同僚がそろう。林さんは海外営業部で、世界各国の企業に英語で営業をしている。

結婚後、夫の転勤で三重へ引っ越すこととなり、退社を考えたが「やりたいことは口に出してみよう」と、社長に相談。話し合いの結果、月に数回通勤することを条件にリモートで働く提案を受け、現在も桑名の自宅で働いている。

「会社全体の考え方が柔軟で、制度や前例がなくても、社員に合ったスタイルを提案してもらえる。急な休みもフォロー体制が整っているので休みやすい。通勤時間がないので、就業開始直前まで家事ができ、勤務後もすぐに子どもとの時間を持つことができる環境がお気に入り」と林さん。

私生活では子ども第一主義を貫いており、１週間のうち、月・水・金曜は常備菜などを作り、火・木曜は掃除。業務時間外はメールは見ず、仕事を家庭に持ち込まない、タスクを書き出すなどのルールで時間の確保に努めている。
また、日曜の食事やゴミ出し、家具・家電修理などは夫の担当と、ご家族の協力も欠かせない。本音を言えばもう少し自分の時間が欲しいと言う林さんだが、ご家族の話をする顔は生き生きとしていた。



エンジニア経験もあり、リモートの海外営業としてグローバルに活躍する林さん。しかし、仕事中心ではなくプライベートを大切にしている姿が印象的だった。何よりも家族との時間を大切にする考え方は、林さん自身に海外経験があり、個人を尊重する会社や同僚の姿が後押ししているようだ。

女性が社会で活躍する中で、ライフイベントの影響が大きく悩みは尽きない。しかし、林さんはいかなる状況でもその時々を楽しんでいる。その芯の強さが仕事と育児との両立につながっているのではないだろうか。
自宅にいながら国際的な仕事をこなし、子どもとも大いに遊ぶ。そのしなやかな姿は私たちに新しい選択肢を与えてくれた。（中村ちか）

日本文化をタイに広める！子育て後の次のステージ

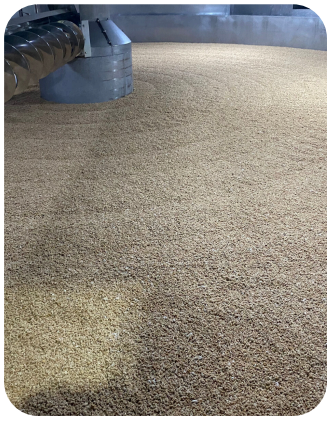
宮村 かおり さん

ヤマモリ（タイランド）株式会社　工場長

醤油でおなじみの桑名市を代表する食品メーカーのヤマモリ株式会社。タイにある醤油工場の工場長を務めるのが宮村かおりさんだ。工場長就任前は研究開発部門にて、健康機能を発揮するＧＡＢＡの開発に携わり、「ＧＡＢＡしょうゆ」や「睡活ビネガー」の開発など、研究の第一線で活躍していた。

小学校から高校までバスケットボールに夢中だった。大学では生物資源を専攻し、学んだことを活かしたいと地元食品メーカーヤマモリの研究開発職に就いた。

子育てとの両立は、多忙を極め苦労があったそう。それでも、長年醸造の研究を進め実績を残していった。子育てが一段落したところで、次のステップを目指すように。「開発ではない新たなことにチャレンジしたい！」「ものづくりが好きだ！」という熱い気持ちから醸造が中心であるタイ工場の工場長に就任した。



世界的に見ても女性の社会進出が進んでいるタイでは、多くの女性管理職が活躍している。宮村さんも工場長として仕事をするうえで男女差は感じていないという。
責任ある立場で裁量が大きくなり、会社に貢献できる範囲が広がったことにやりがいを感じているのだそう。

単身でタイに赴任して、7カ月。会社から帰省許可は出ているもののまだ一度も日本に帰っていない。ただ、離れて暮らす家族とはテレビ電話などで密に連絡をとり「昔に駐在してた人よりは、家族とのコミュニケーションは取りやすい」と、柔らかな表情で教えてくれた。

海外生活にも順応して「不満はない」と言い切る姿が印象的で、宮村さんの柔軟な人柄が垣間見えた。今は「Dreams come true .Do it forever.」のスローガンのもと醤油を通じて、日本の文化をタイに広めることが目標だ。

管理職になることを打診されても躊躇する女性は多いだろう。今後のキャリアに悩む人へアドバイスをお願いすると、そのような立場ではないと謙遜しながらも「やっぱりチャレンジ！チャレンジしてみましょう！女性だからって特に尻込みする必要もないと思います」と力強い言葉をいただいた。

子育てを終え、仕事で実績を残してもなお現状に甘んじることなく新しいことにチャレンジする宮村さん。多くの女性の背中を後押しするロールモデルになるのではないだろうか。（山本）

編集後記

今回さまざまな働き方で活躍する4名の女性を取材し、今回初めてチームで記事を作り上げました。それぞれの働き方や価値観を深掘りする中で、多くの刺激を受け、編集作業を通して新たな発見もありました。柔軟性と挑戦心が新しいキャリアを切り拓く鍵だと感じるとともに、私自身も自分の働き方を考え直す良い機会となりました。（星野）

栗田さんの「応援し合える関係性でいたい」という言葉が印象的でした。クリマロさんのように、様々な事情を持つ人々がそれぞれの才能を活かして社会に参加できる場所が増えるといいなと思います。多様な価値観を受け入れ、尊重し合う社会の実現に向けて、私たち一人ひとりができることは何か、考えて行動してほしいと思います。（柳）

仕事のキャリアを積み、子育てを経て、その先の人生に新たな目標を掲げてチャレンジをしているヤマモリの宮村さんの取材では、子育てを終えてからの自分自身のビジョンを考える機会になりました。初めてのことで至らないことばかりでしたが、Writing Shipの神谷さんと職員の土屋さん、編集員の皆さんのおかげで楽しく学びのある経験となりました。ありがとうございました。（山本）

新しい働き方を模索するために取材・記事作成に初めて取り組みました。小さな子どもを育てながら、なりたい姿なんて追い求められない！そう思っていましたが、取材を通じて、ほんのわずかでも時間や想いを紡いでいくことに大きな意義があると感じています。同じように悩んでいるみなさんと思いを共有できると嬉しいです。（中村ちか）

今後の働き方について悩んでいた時に、今回のような取材の機会をいただきました。
多様な働き方で活躍する皆さんの考えに触れ、私自身とても勇気づけられ、有意義な時間でした。
同じように悩まれている方々のご参考になれば幸いです。

（中村りえ）

監修：Writing Ship

令和7年度　桑名市男女共同参画推進事業スケジュール（予定）

- ●女性弁護士法律相談・・・毎月第二土曜日
- ●三重県内男女共同参画連携映画祭・・・6月
- ●人材育成講座・男性講座・・・随時
- ●【桑名市立図書館と共催】関連図書紹介及びパネル展示・・・8月・11月・2月

※スケジュールは都合により変更する場合がございます。
　詳細につきましては、桑名市ホームページまたはメールマガジンをご覧ください。

「桑名市男女共同参画メールマガジン」のご案内

桑名市では、男女共同参画に関する情報を発信するため、メールマガジンの配信を行っています。桑名市で実施する男女共同参画連携映画祭をはじめ、人材育成講座、男性講座などの事業の情報を紹介しています。
右の二次元コードから登録できます。
ぜひご登録いただき事業へもご参加ください。

登録はこちら

発行：桑名市役所　地域コミュニティ課

住所：〒511-0068
桑名市中央町三丁目79番地
くわなメディアライヴ2階

TEL：0594-24-1413
Email：ccollabo@city.kuwana.lg.jp